

令和3年度 情報学部 小論文試験についての全体講評

1. 出題の意図

アドミッションポリシーに示される「地域社会に貢献する情報技術のあり方について自ら思考し表現共有する力」を評価することを目的とした出題です。情報通信技術（ICT）に関する文章を題材に文章の読解力、ICTに関する基礎的な知識と理解力および議論を展開する文章の作成力を問うています。

2. 評価のポイント

大問2問の論述式の出題でした。主に理解力を問う問題1と、議論を展開する文章の作成力を主に問う問題2からなっていました。問題ごとの評価のポイントは以下の通りです。

問題1

設問1は、与えられたICTに関する文章の読解と技術の特性の理解についての問題です。理解したことを短い文章への適切に要約することが期待されます。題材の文章には、扱われているICTの技術を説明する文やその効果を説明する文が存在し、それらを論旨に沿う形で理解することが重要です。重要な箇所を抜き出せても、それを単純に復唱するだけでは適切とは言えません。また、たとえそれが説得力を有するものであっても、本文に書かれていない技術や課題に言及することも適切とは言えません。

設問2は、与えられた文章を題材に、主に地域社会の観点からICTの利活用について論じるものです。問題文にあるように「具体的な例」をあげ、その例に沿って回答することが求められています。「ICT技術を使えば地域社会の将来は発展する」のような抽象的な回答や与えられた文章と無関係なICTの例を引き合いに出すことは適切ではありません。また、ICTの利活用が地域にもたらす発展の可能性と不安や課題の解決のあり方について、それぞれの考えを明快に述べることが重要です。

問題2

問題2では、与えられたICTに関する文章を読解し、設問で問われたことについて、自分の考えを述べることを求められています。自分自身の考えを論じるためには、その考えを支持するに足る「根拠」を示すことおよび、その根拠を確かなものとするための「事例」を提示することが期待されます。その際に、反対の考えや反例を提示して適切に比較することが重要です。また、文章が取り上げているICT技術が及ぼす影響について、その技術の特性を把握した上での議論が求められています。

これらの考えを記述することにおいて、唯一の明らかな答えはありません。評価のポイントは、議論の明快さやその展開の適切さです。なお、考えを述べる対象は設問に指定されている事柄です。この範囲を逸脱した議論、例えば、一般的なICTの将来性や課題などを論じることは、述べている考えの対象やその論旨を曖昧にしてしまい、適切ではありません。

福知山公立大学入試委員会

令和3年3月31日